

シンポジウム 「人口減少を機にひらく未来社会」

—SIP第3期「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」—

第 1 部 (13:00 - 15:05)

●ポスコロSIPへの期待

篠原 弘道 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) ガバナンスボード座長/総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員/日本電信電話株式会社 (NTT) 権炎役

日本電信電話(株) (NTT) アクセスサービスシステム研究所長、情報流通基盤総合研究所長、研究企画部門長を経て、2014年代表取締役副社長、2018年取締役会長、2022年より相談役(現職)。現在、経団連デジタルエコノミー推進委員会共同委員長、内閣府総合科学技術・イノベーション会議議員を務めている。



●課題の紹介

西村 訓弘 (PD) 三重大学大学院 地域イノベーション学 研究科 教授・特命副学長

筑波大学第二学群農林学類卒業後、企業の研究員となり博士号取得(農学)。渡米し、米国企業の研究員、ベンチャー企業経営を経て2006年、三重大学医学系研究科教授に就任し、地域イノベーション学研究科の創設に関わる。自治体、企業、高校など大学の枠を越えて地域イノベーション活動を展開中。



●ポスコロSIPで取り組む研究開発

草原 和博 広島大学人間社会科学部 教授
「デジタル・シティズンシップ・シティで「新たな『学び』」をつくる～越境する教室、公共的対話、公教育の再構築～」

能智 正博 東京大学大学院教育学研究科 教授
「教える側の『学び』を支援する～バーチャル空間に教師の居場所を作る試み～」

石井クツ 昌子 お茶の水女子大学 理事・副学長
「D&I社会実現へ向けて～学び方と働き方の視点から～」

山中 真也 室蘭工業大学大学院工学研究科 教授
「だてプロの挑戦～誰もが自分らしい生き方(学び方、働き方)ができる社会の実現を目指して～」



人口増加を伴う経済成長期に創り上げた社会のしくみが、経済が成熟し、人口が減少し始めた今の日本には適さなくなり、人口減少下でも機能する新しいしくみを構築することが求められています。人口減少に伴って社会構造を変えざるを得なくなることを好機としてとらえ、多様な人々が持つ力と最先端の技術を活かすことで難局を乗り越え、「個々の輝きが共鳴し、共に進化し続ける幸福な社会」の形成へとつなげていくことが重要だと考えます。

2023年度に発足した戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」(ポスコロSIP)では、一人ひとりの多様な力が発揮され、進化し続ける幸福な社会の実現を目指し、これからの時代に求められる学びと働き方にアプローチする社会実装型研究開発を推進していきます。

本シンポジウムでは、「人口減少を機にひらく未来社会」をテーマに、ポスコロSIPで目指す社会像や取り組みを広く発信するとともに、未来社会をひらくイノベーターの方々との対話を通して、一人ひとりに何ができるのかを考えていきます。

第 2 部 (15:20 - 17:00)

●パネルディスカッション

相川 七瀬氏 (歌手/國學院大學大学院 文学研究科 修士課程 1年)

1975年大阪府生まれ。1995年に「夢見る少女じゃいられない」で歌手デビュー。翌年に発売したアルバム「Red」は280万枚を記録し、現在までのCDトータルセールスは1200万枚にのぼる。歌手活動を続ける傍ら、2020年に國學院大學神道文化学部を受験し合格。2024年4月から同大学院に進学。



浅井 雄一郎氏 (株式会社浅井農園 代表取締役社長 CEO)

1980年、三重県津市生まれ。大学卒業後、経営コンサルティング会社等を経て、三重県津市にある家業(花木生産)を継承し、第二創業として2008年よりミニトマトの生産を開始。農業法人経営の傍ら、三重大学大学院でトマトのゲノム育種研究等に取り組み、2016年に博士号を取得。農商工連携により次世代型農業のモデル構築に挑戦している。



浮世 満理子氏 (アイディア高等学院 学院長/ 一般社団法人全国心理業連合会 代表理事)

アメリカで心理学を学び、帰国後、株式会社アイディアヒューマンサポートサービスを設立。日本で初めて「生徒1名に対して専属のメンタルトレーナーが1名付く」通信制高校サポート校の「アイディア高等学院」を設立。全国心理業連合会代表理事。



ほか、本課題のプログラムディレクター(PD)、サブ・プログラムディレクター(SPD)を交えてトークセッションを行います。
西村 訓弘 (PD)、野城 智也 (SPD)、西岡 加名恵 (SPD)、東 博暢 (SPD)、大山 潤爾 (SPD)